

- 三つに分けて考えられる：(1) 3:1-15、(2) 3:16-4:1、(3) 4:2-4:6
- 3:1-15「万軍の主」で囲まれている。社会機能の崩壊。
 - 困難に直面することで主に立ち返るよにとの呼びかけ。だが、試練があっても帰らない民 (cf. アモス 4:6-8)。
 - 2節：勇士、戦士、さばき人、預言者、占い師、長老一団、社会の安定と繁栄を支える人たち。混乱。罪深い生き方、態度、考え方、振る舞い。言葉と行動が国民的混乱の元となっていた。
- 3:16-4:1「シオンの娘たち」、「シオン(エルサレム)」、「女たち」。神さまからの報い。
 - 彼らの「態度」が問題であった→高ぶり
 - 3:24 upside down. 5 “instead” (日本語訳には表現されていない)
 - ◇ 「結い上げた髪」以外は哀悼・喪服 (mourning) の時に使用される表現 (2 Sam 12:20; 19:24 | Ki 20:32; Jer 48:37)
 - 罪によって起こる結果
- 4:2-6 神さまが用意される力・祝福
 - 主からのメッセージ：栄光と生き残ること (2節)、聖さと生命 (3節)、汚れの洗い流し (4節)、新しい創造と神の臨在 (5節)、避け所への招き (6節)
 - これらが実現するのは、「主の若枝」(2節)を通して。メシヤ的な表現 (Jer 23:5; 33:15; Zech 3:8; 6:12)。
- C.S. Lewis『キリスト教の精髓 (Mere Christianity)』より
 - 「ジョージ・マクドナルドからもう一つ譬えを借りたいと思う。あなたが一つの生きた家だと仮定して見ていただきたい。神がきて、その家を建てなおそうとなさる。多分初めのうちは、神がしておられることをあなたは理解できるだろう。彼は排水の具合をよくしたり、屋根の漏れをとめたりなどしておられる。それらの仕事は、どっちみちやらなければならないことなので、あなたは別に驚かない。ところが、やがて彼はその家をひどく乱暴に扱いはじめ、家は激しい痛みを感じ、なぜこんなことをされるのか全然理解できない。いったい彼は何をしようとしているのか。その答えはこうだ。彼は、ここに新しい棟を増築し、あそこにもう一階建てまし、いくつかの塔を立て、広い前庭を作り—要するに、あなたが考えていたのとは全く違った家を建てているのである。あなたは品のいい小じんまりした家にしてくれるものと思っていた。ところが、彼は宮殿を建てている—しかも彼はご自身そこにきて住もうとしておられるのである。」(第4部9節、309頁)
- これぞまさにイザヤ書のこの箇所が示す、神さまが私たちに対してなさろうとしていることである。私たちの想像を遥かに超える形で私たちを再創造してくださっている。
 - それにはまず、今まで頼りにしていたことを全て「失う」必要がある。失われることによってはじめて与えられる・創造される神さまからさずかる力なのである。
 - それを実現してくださるためにメシヤ／救い主は来られる。主イエス・キリストを通してその再創造が始まる。
- 秋吉久美子さんの証
 - 子どものころの日曜学校。六十代になってから洗礼を受けた。種まきはなされていた。(Cf. 吉田隆『キリスト教の“はじまり”：古代教会史入門』いのちのことば社、2019年)。
 - 聖霊さまはずっと働いてくださる。私たちには祈ることを求められる。
- コリント第一 1章 18節「十字架のことばは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。」
- 神の力が与えられている者として、神さまは私たちに何を求めておられるのだろうか。